

Internal Circulation

—呼吸の巴—



Kozo Toyota

収録曲 (収録時間 67:51)

- 1 Aisling Gheal
- 2 Ross Memorial Hospital
- 3 Slow Jigs : Mist Covered Mountain / Castletown Conners / The Rooms of Dooagh
- 4 Slow Reels : Last House in the Village / Spike Island Lasses / Griffin from the Bridge
- 5 Jigs : Trip to Brittany / Across the Black River / Tatter Jack Walsh
- 6 Slides : The Gleanntan Frolics / The Toormore / Maidhc Dainnin O Se's Slide
- 7 Paddy's Rambling through the Park
- 8 First Snow #2
- 9 Hornpipes : The Bird's Hornpipe / Flowing Down Her Back And The Colour Of Her Golden Hair Was Black
- 10 Slip Jigs : Heart Shaped Wood / Soggy's
- 11 Jigs : The Rakes Of Clonmel / Pat Mahon's
- 12 Reels : Palmer's Gate / Joe Cooley's Morning Dew / Skyedance
- 13 Reels : New Mown Meadow / The Old Dudeen / O'Mahoney's

2018.03.11 on sale

¥2,500 + tax

TOICS-102

発売元 : TOKYO IRISH COMPANY

販売元 : Meta Company Limited

豊田 耕三 1stソロアルバム [Internal Circulation —呼吸の巴—]

<豊田耕三にとって初めてのソロアルバム>

ほとんどの曲はアイルランドの伝統音楽新旧のリポーターから選ばれている。楽器はフルートとギターの2つだけというシンプルな楽器構成で録音。フルートは通常のD管ではなく、全編を通してE flat管を、多重録音のハーモニーにはB flat管を使用した。

<アイリッシュ音楽と東洋思想を結びつける>

本作は、仏教やミニマリズムなどのいくつかの思想からのインスピレーションを受けて、最小限の編成、可能な限りシンプルでスペースなアレンジ、ミニマルな変奏を中心につくりあげた。中心となるコンセプトは、アイリッシュ音楽の反復を東洋思想の円環発想と結びつけて表現すること。

<アルバムの構成について>

これを実現するために本CDは全体を大きく二部に分け、それぞれテンポ感の希薄なスローエアから始まり、徐々にテンポが上がっていくように組まれている。ダンスチューンは2~3曲のセットになっているが、セットとセットの間は音が途切れなく続くため、トラック1~6、7~13がそれぞれまるで大きな1セットに聞こえるように録音されている。また、6のテンポの速いスライドから7のスローエアも音がつながっており、全曲リピート機能を使うと最後のトラックから最初のトラックへも若干の静寂を挟んでつながり、2つの異なるストーリーを交互に循環するようにつくられている。



豊田 耕三
Kozo Toyota
/ フルート

アイリッシュ・フルート&ティン・ホイッスル奏者。東京芸術大学音楽学部楽理科卒業、同大学大学院音楽研究科修士課程修了。O'Jizo、Toyota Ceili Band等複数のバンドを主宰。東京芸術大学ケルト音楽研究部 (g-celt) 、

Intercollegiate Celtic Festival (ICF)等、グループやフェスティバルを複数立ち上げ、日本の若手がアイルランド音楽やダンスに熱中する火付け役となる。2016年オール・アイルランド・フラワー・キョール、ティン・ホイッスル・スローエア部門3位入賞（日本人初）。地元千葉県船橋市の二宮神社の神楽囃子連にも所属し、篠笛を中心に伝統芸能の担い手としても活動中。



久保 慧祐 Keisuke Kubo / ギター

1995年生まれ、鹿児島県鹿屋市出身。3歳からクラシックピアノを、13歳からアコースティックギターを始め、クラシックおよびポピュラー音楽制作を行う。東京芸術大学入学後、同大学ケルト音楽研究部 (g-celt) にてアイルランド音楽に魅了され、ギターやバンジョーなどの演奏をセッションやライブなどにて研鑽を積んでいる。現在、同大学音楽環境創造科4年次に在籍し、民族音楽を土台にした創作研究に取り組んでいる。